

「放送番組」を活用して新しい授業を行いたい教員におすすめ

●大学の授業にもっと「放送番組」を活かそう！●

放送番組で読み解く社会的記憶

ジャーナリズム・リテラシー教育への活用



9784816923654

早稲田大学ジャーナリズム教育研究所，公益財団法人放送番組センター共編
A5・390頁＋DVD1枚 定価(本体5,000円＋税) ISBN978-4-8169-2365-4 2012年6月刊行

放送番組を大学の教育現場で利活用する未来を拓くための端緒となる1冊

- 人々がある出来事や事件や社会現象を思い浮かべたときに何をもって思い出すか。放送番組が切り取ったそれらの表象ではないか。社会的記憶の出典を検証する教材として、大学の授業で放送番組を活用するための具体的方法と事例を示す。
- 実際に授業案を提示することで分かる放送番組活用の利点、そしてアーカイビングの課題点を提起。

- 早稲田大学ジャーナリズム教育研究所と放送番組センターの共同研究である「放送番組の森研究会」が、大学の授業で放送番組を資料として活用するための具体的方法を提示する実践的な報告集です。
- 巻末資料として、各章本文に関連する放送番組の基本データ及び放送ライブラリー・NHKアーカイブスでの公開状況を掲載した「関連番組一覧」を収録しています。
- 本書授業展開案を元に行われた公開授業(2011年11月18～20日に放送番組センターにて開催)を収録(ダイジェスト)したDVD付き。

編者プロフィール

早稲田大学ジャーナリズム教育研究所(J-Freedom)

早稲田大学総合研究機構に承認されたプロジェクト研究所のひとつで、「ジャーナリスト教育の研究開発とジャーナリズム研究の革新」をテーマとして、2007年4月に設立された。ジャーナリスト養成教育の場として、オープン教育センター・全学共通副専攻・ジャーナリズム／メディア文化コースを展開し、全学の学部学生を対象にしている。所長は花田達朗。ホームページは<http://www.hanadataz.jp/00/front.htm>

公益財団法人 放送番組センター

放送の健全な発達を図ることを目的として、1968年3月、NHKと全民放テレビ局が共同して設立した。1991年からは、放送法第167条の指定を受け、放送番組を文化資産として収集・保存し、一般に公開する放送ライブラリー事業を実施。保存した番組をメディア・リテラシー教育などに役立てていく方策も推進している。2012年4月、公益財団法人に移行した。ホームページは<http://www.bpcj.or.jp/>

【目次】

はしがき(花田達朗)

総論(花田達朗)

第Ⅰ章 ヒロシマ・ナガサキの樹(安藤裕子)

第Ⅱ章 BC級戦犯の樹(藤田真文)

第Ⅲ章 華僑・華人の樹(林怡媛)

第Ⅳ章 原子力の樹(烏谷昌幸)

第Ⅴ章 「水俣」の樹(小林直毅)

第Ⅵ章 失業の樹(伊藤守)

第Ⅶ章 ベトナム戦争の樹(別府三奈子)

第Ⅷ章 沖縄返還密約の樹(花田達朗)

第Ⅸ章 犯罪の樹(大石泰彦)

第Ⅹ章 アフガン・イラク戦争の樹(野中章弘)

資料編 関連番組一覧

あとがき(鈴木豊)

放送ライブラリーの紹介

*10の社会的テーマについて、『概説／関連年表／関連するテレビ番組の系譜論／授業展開案／参考図書・文献・資料一覧／公開授業の感想』を収録しています。

本書を強く推薦します！

TBS「報道特集」キャスター 金平茂紀

2010年まで2年間だけ米コロンビア大学に在籍してみて、大学を含む学校公教育の中で、テレビやラジオの放送番組が、ごく当たり前に国民の共有財産として授業で活用されているさまを見て、鮮烈な感動を禁じ得なかった。フェアユースという考え方がなぜ私たちの国では困難なのか。それを突き破る試みとして本書を強く推薦する。

1 テーマ「沖縄返還密約」の概説

(1) 「沖縄返還密約」の2つの局面

日本の戦後史における「沖縄返還密約」というテーマは大きく2つの局面からなっており、それらが絡み合い混在しているように見える。敢えて区別してみれば、第1は安全保障政策ないし外交政策における密約問題である。なぜ密約は発生したのか、発生するのか、密約の理由と内容、密約を結んだ主体同士とその目的や利害などの説明が関心対象となる。第2は公権力の政策実践過程やジャーナリズムとの関係性という概念が関わりをもつ。

言い換えれば、第1の「権力同士の攻防」の権力との間の、あるいはめぐる攻防」の物語だと

この教材では、日本外ナリズム・リテラシー第2の局面に焦点がおとする対象の密約自体が権力構造と時代環境がどナリズム活動は行われ取材主体であるジャーを得ないこともまたリリストも第1の「権力同していくので(太田 20言って、それが直ちに第のような産物はむしろ

4 授業展開案

第4回 政権交代、そして歴史の検証

2009年の民主党への政権交代は、過去の自民党政権時代の沖縄返還密約問題について幾分語りやすい状況を作り出したと言える。民主党は選挙戦期間中から政権につけば密約問題の解明に乗り出すと公言していたし、政権交代後、就任早々の岡田外相は外務省に内部調査を命じた。37年間動かなかったものが動き始めた。議会多数派によって政権＝政府が作られるのであり、多数派が変われば、過去の政権が闇に葬った事柄が明るみに出されるのだということを選挙民に実感させるに十分なシーンとなった。

これを受けて、ジャーナリズムは密約問題で大いに賑わった。民主党政権が普天間基地移設問題で迷走を始め、支持率を落としていく状況の中であつたが、テレビ番組ではNHKが2本のドキュメンタリーを放送する。この授業展開案の第2回、「25年後のディスクロージャー：『核密約』として」で2本の作品を取り上げたが、今回の次の2本の作品は政権交代後のリベンジだと見ることもできる。

第1は、2010年5月15日のNHK-BS1『沖縄返還と密約—アメリカの対日外交戦略』(BS世界のドキュメンタリー)である。日付からすれば、沖縄復帰記念日の放送ということになる。このディレクターはフリーとなった土江真樹子であり、NHK-BSに時間枠を得て、今回は沖縄ローカルではなく全国放送となった。この番組は、沖縄返還交渉の中で持ちこたえられた密約が交わされた事情と背景を日米両

「はしがき」より抜粋

…ここに完成した「教材」は、研究会メンバーが社会的テーマについて一人一本の「テーマの樹」を立て、放送番組がそのテーマについてどのような表現をしてきたか、それがどのような社会的記憶の形成に関わってきたのかを検証する、そういう授業のための教材となっている。「樹」の立て方については共通フォーマットを作ったが、その中身については各テーマの固有性を尊重して、自由な幅をもたせている。フォーマットの中には「授業展開案」の項目が含まれている。これは「樹」の立案者が自分でやりたい授業をする場合の構成案として作ったものであり、一つの事例として受け止めていただきたい。

～(中略)～

「授業構成案」の提示という具体的な提案を行ったのは、私たち研究会が具体的かつ現実的な仕方でも問題解決にアプローチしようと考えたからである。では、その解決すべき問題とは何か。大学での授業の中で放送番組を活用する仕組みやシステムがまだできていないということである。そこにはさまざまな制約がある。放送番組を大学で自由に活用できるとしたら、どのような授業ができるのか、それを明示することこそが、放送業界を含めた、外の政治・経済・社会に対して改善のアピールになると、私たちは考えたのである。

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	放送番組で読み解く社会的記憶 ジャーナリズム・リテラシー教育への活用	冊
		定価(本体5,000円+税) ISBN978-4-8169-2365-4	
■お名前			